

中国アナキズムは五四時期の革命思想の前衛的役割を果した。中国近代思想史・中国近現代史の再構成に必須の史料

革命週報

罪案

黑色青年集

葉集 LA LAZORO 五餘

坂井洋史・嵯峨隆編 解題

全12卷・別冊1

原典 中国アナキズム史料集成

一九九四年四月刊

緑蔭書房



克魯泡特金學說概要

無政府

府主石曾題

革命

評議

阿女



The Chinese Anarchist News.

報 衡

過去の幽霊及其他



刊行にあたって

中国においてアナキズムが生存し得た期間はおよそ三十数年、そしてそれが政治的影響力を持ち得たのは僅か二十数年に過ぎない。中国において、アナキズムが敗北した思想の一つであることは紛れもない事実である。しかし、マルクス主義を初めとする社会主義思想の伝播に際して果たした先導的役割、伝統思想との融合と反発による特殊中国的展開という事実、そして毛沢東主義体制下の中国でしばしば見られた「アナキズム」的傾向の存在は、中国政治史の展開過程におけるアナキズムの重要性を示唆していると言えよう。アナキズムが中国近現代史研究者の関心を引き付けて来た理由はここにあった。然るに、この分野の研究が更なる発展を遂げるに当たっては、克服されるべき障害が存在した。即ち、中国側史料の非公開と、日本側史料の分散という問題である。中国本土において、アナキズムに関する史料がこれまで公開されなかった主たる理由は、それが現在の政治的指導原理と根本的に相容れない思想であったために外ならない。この問題は、昨今の中国における学術面での開放政策に伴う各種史料集の出版という好ましい傾向に負って、ある程度解決されつつあるかに見えるが、研究者の側からすれば、今度は洪水のように押し寄せる史料の波に如何に立ち向かうかが問題となる。しかも、ここでは史料集編纂の過程で生じがちな字句上の異同等なども避けられず、逆に今後引き続き予想される史料公刊の流れの中で、研究者が史料に幻惑される事態が生じないとも限らない。そこで本書は、日本各地に散在する史料を一つにまとめ、原典を影印版という生の形で提示することによって、かかる事態に対処しようとするものである。編者一同、本史料集の刊行が今後の中国アナキズム研究の発展、更には中国近現代史の再構成の作業において、多大な貢献をすることを確信するものである。

編者

アナキズムの役割に 新しい光をあてる史料

丸山松幸 (東京大学教授)

清末以来の中国の軌跡は、民族主義と共産主義という二つの焦点をめぐる楕円を描いている。アナキズムはこの両者に吸収されたように見えながら、その流れは、中国近代思想史のなかに脈々とつづいている。初期の共産主義者はほとんどみな、なんらかの形でその洗礼を受けているし、もっとも遠いかに見える国民党のなかにも元アナキストは少なくない。アナキズムは、中国の革新的な青年たちを、ずっと魅惑しつづけてきたのである。

アナキズムはその思想的本質からして輝かしいリーダーを生みにくく、ほとんど無名の青年たちによって支えられた。グループも小さい。しかし彼らは、あたかも結晶をつくる核のように、目だたぬところで決定的な役割を果たしている。この史料集はそういった思想運動に新しい光をあてるものである。影印で刊行されるのも嬉しいことだ。「主要論文集」などと違って、原註面から立ちのぼる時代の息吹をじかに感じることができる。



思想史の空白を埋め多様な 可能性を含む今日的史料

野村浩一 (立教大学教授)

中国世界は、ある意味ではアナキシーな世界である。「日出でて作^{つく}き、日入りて息^{いき}う。帝力、我れにおいて何かあらんや」という有名な言葉は、しばしば東洋的無関心あるいは東洋的アナキズムとよばれるが、他方、史上に繰り返された専制王朝の土崩瓦解―乱世の世には、文字どおりアナキシーな、それゆえにまた、すさまじいエネルギーの噴出する世界が出現した。オリエンタル・デスポティズムの裏側には、オリエンタル・アナキズムが貼りついている。

二〇世紀初頭、中華帝国の解体の中で、西洋近代思想との出会いにも触発されつつ、この国には思想としてのアナキズムが多様な形をとって現われた。やがてマルクス主義の流入とともに、わが国と同様、烈しいアナキスト論争が展開された。共産党の創設者、陳独秀が激烈な調子でアナキズムを叩いたのは、彼がその深さと根強さを身にしみて知っていたからかも知れない。しかし、陳独秀がある種の理論的几帳面さで批判を加えたのに対して、青年毛沢東は、無言のうちにもそこら何かしらエネルギーをくみとっていたようにみえる。毛沢東の人生のふし目で、それが顔をあらわしている。

近年、中国でも無政府主義思想に関する史料がまとめられつつあるが、これまでこの分野に専念してきた編者によるこの「史料集成」の価値は大きい。それは、思想史の空白を埋めるだけではなく、歴史に問いかける人々には、様々な可能性を含んだ答えをもって迎えてくれるだろう。

史料全12巻の概要

第1巻〜第6巻



革命週報社

革命週報

初版合訂第一冊〜五冊
一九二七年七月・八月・二月
第53・60・65・78・80・81・84・86・92・93・101期
一九二八年三月・六月
二七年四・二以降のアナキズムを知る最大の史料

第7巻

劉申叔編

衡報

第二号〜三号・六号・一〇号
一九〇八年四・五・六・八月
《天義報》と並ぶ清末東京グループの主要刊行物

工余社

工余

第三年第二号
一九二四年九月
上海に拠点を移した赴仏勤工儉学生アナキストの刊行物

平平旬刊社

平平旬刊

第二〜九期(第九期付増刊)
一九二四年四月〜六月
中朝台の抵抗運動の消息も伝える特異なアナキズム誌

民鐘社

民鐘

第二巻第一期〜三期
一九二七年一月〜三月
中国アナキズム運動における代表的な雑誌の一つ

第8巻

李少陵・主祺編

春雷

第一期〜三期・増刊
一九二三年〜二四年四月
アナキズムの純粋化を指向したA・F・K.の外部団体、
広州真社の不定期機関誌

広州真社

驚蟄

第一期 一九二四年
『春雷』不定期化を承けて発刊された雑誌

黑色青年

第八期 刊行年不明
運動衰退期の三〇年代に刊行された貴重史料

無産文化協会組織大綱

一九二九年三月

中国黑色青年聯盟為雙十國慶紀念宣言他

一九三〇年一〇月

『時与潮』改出定期刊行之『自由青年小叢書』通知書

一九三〇年二月

第9巻

馬拉跌士達著／白柳秀湖原訳／張継重訳

無政府主義

一九〇八年二月
マラアスタ原著、張継口語訳、一九〇八年刊の稀見史料

景梅九著 国風日報社

罪案

一九二四年四月初版
清末アナキスト・景梅九の回想録『留日回顧』の原本全篇

景梅九著 国風日報社

兵農合一評議

一九四六年二月初版
景梅九後期の抱負を窺わせる好個の冊子

社会主義講習会

明治四〇年一〇月
社会主義講習会に関する日本官憲史料

第10巻

劉師復著／鉄心編 平民書社

無政府主義討論集 第一集

一九二二年七月初版

江亢虎の社会主義を駁した師復の論説集

朱謙之著 新中国雜誌社

現代思潮批評

一九二〇年一月初版
独自の虚無主義を展開した朱謙之最初の著書

朱謙之著 国立中山大学史学研究会

奮闘卅年

一九四六年八月
自らの前半生を回顧した自伝的性格の書

第11巻

自由叢書第一種 上海自由書店

克魯泡特金学説概要

一九二八年七月初版
当時の中国のクロボトキン理解の水準を示す書

第12巻

愛羅先珂講 民智書局

過去の幽霊及其他

一九二三年三月初版
ロシアのエスペランテイスト・古シエンコの来華中講演録

華林著 泰東書局

枯葉集

一九二四年四月初版
五四時期の著名アナキスト・華林のエッセイ集

盧劍波著 上海大光書局

有刺的薔薇

一九三六年七月再版
二〇年代後半のエッセイを集めた盧劍波の最初の著作

